

〈小学校 国語〉

# 「読む力」を育てるための国語科学習の展開 － 音読指導の工夫を通して －



宮古島市立教育研究所 第一期研究教員  
宮古島市立 久松小学校 教諭 与那覇 彰子

# 目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
IV	研究の構想	2
V	研究内容	
1	音読についての基本的な考え方	3
(1)	音読とは	3
(2)	読む力とは	3
(3)	音読指導の重要性	4
(4)	音読の効果	5
2	音読で生き生き授業づくり	6
(1)	学年に応じた音読指導	6
(2)	音読を生かした指導法	8
(3)	楽しい授業にするための工夫	9
(4)	音読記号の種類	11
(5)	音読を生かした授業の展開	12
3	定着させたい音読スキル	13
(1)	音読で基礎技能を高める	13
(2)	音読の基礎	13
(3)	音読の基礎技能	13
(4)	音読するときの主なきまり	16
VI	指導の実際	
1	朝の音読タイムの実践	17
2	授業実践	20
3	授業仮説の検証	29
VII	研究仮説の検証	
1	仮説1の検証	31
2	仮説2の検証	33
VIII	研究の成果と課題	
1	成果	34
2	課題	34
IX	おわりに	34
	【主な参考文献・引用文献】	34

# 「読む力」を育てるための国語科学習の展開

- 音読指導の工夫を通して -

宮古島市立久松小学校 教諭 与那覇 彰子

## 主題設定の理由

国語力はすべての学習活動において必要とされるものであり、学力の最も基本となるものであるとされている。

2004年12月に、OECD（経済協力開発機構）による国際学力検査の結果が公表され、日本の子ども達の「読解力」が前回調査時に比べて大きく低下したことが明らかになった。これを受けて文部科学省からは「読解力向上プログラム」が示され、学校での取り組みの重点目標として、「テキストを理解・評価しながら読む力を高める取り組みの充実」が上げられ、「読む力」に視点を当てた授業改善に取り組むことが、これまで以上に求められることになった。

一方、学習指導要領によると、この読むことについては、「声に出して読むこと。」「効果的な読み方を工夫すること。」と打ち出している。

ここで「読む力」について、子どもの発達段階について考えてみると、先ず、乳児期からの親の「語りかけ」「コミュニケーション」、幼児期の「絵本の読み聞かせ」、最後に学齢期の「音読」の練習や「読書」などで「読む力」の基礎が培われるといわれている。中でもとりわけ「音読」については、実際に声を出すことにより全神経を集中させることができるので、記憶力も確実にとなると考えられる。

例えばクラスの児童に目を向けてみると、音読の好きな児童が多く一斉読みの時は、大きな声で音読する。しかし、一方で一人読みになると「教科書がスラスラと読めない。」「声が小さい。」などの児童が見られることも事実である。また、読みが浅く感動がない、「読む力」の不足によって、テストなどで問題の意味が分からないなどの、子どもの実態が明らかになった。

これらのことの理由のひとつとして、授業の中で音読活動（ここでいう音読活動とは、文字を単に目で読むだけではなく児童が自ら進んで実際に声に出して読む様々な活動）を効果的に取り入れる工夫が足りなかったこと、あるいは、朝の音読タイム等を利用した継続的な音読の練習の不足などが考えられる。そこで本研究では、音読指導を重視する必要があると考えた。音読を取り入れた指導を工夫し、児童に音読に親しませ「読む力」をつけていきたいと考える。

以上のことから、「読む力」をつけるための指導の手だてとして、国語科の授業で音読活動を効果的に取り入れ、読み方の指導の工夫、また、朝の音読タイムの効果的な取り組みにより、「読む力」が育っていくのではないかと考え、この主題を設定した。

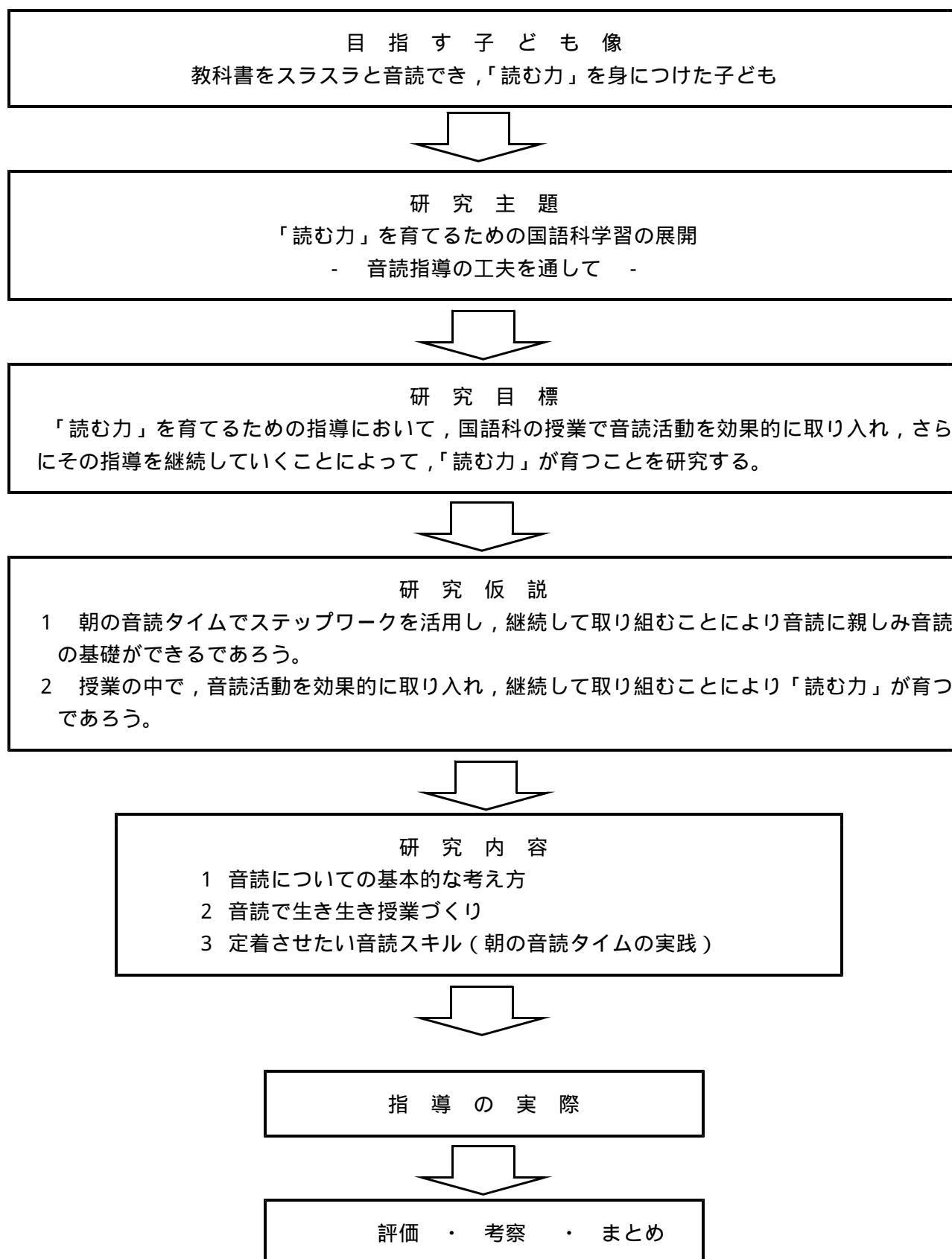
## 研究目標

「読む力」を育てるための指導において、国語科の授業で音読活動を効果的に取り入れ、さらにその指導を継続していくことによって、「読む力」が育つことを研究する。

## 研究仮説

- 1 朝の音読タイムでステップワークを活用し、継続して取り組むことにより、音読に親しみ音読の基礎ができるであろう。
- 2 授業の中で音読活動を効果的に取り入れ、継続して取り組むことにより「読む力」が育つであろう。

## 研究の構想図



## 研究内容

### 1 「音読」についての基本的な考え方

近年、日本の子どもたちの「読解力」の低下が明らかになり、これまで以上に「読む力」に視点を当てた授業改善が求められている。そこで、子どもたちが五感をフルに使い、声に出して読むことを取り入れた授業を展開していくことが大切であると捉えて、「音読」についての基本的な考え方を述べる。

#### (1) 音読とは

音読とは文字に書かれたものを音声化して読むことである。また、書かれた内容を理解したり、理解したものを味わうとともに他人に伝えるものである。また、音読の一種で「他人に伝えるための読み」をさらに高度化したものが朗読である。すなわち、十分に理解・鑑賞した上で内容を味わいつつ、他人にもそれを聞いて鑑賞できるように伝える読みである。この音読の力を身につけることによって、結果的に教科書がスラスラ読めるようになる。音読によって教科書等をはっきりした声で読み通す力を身につけることができれば、そのことがすなわち上述したように「読む力」を身につけることにつながっていく。以上のことから、理解力であれ、読書力であれ「読む力」を身につける基礎に「音読」はあると考える。

#### (2) 「読む力」とは

「読む」という学習は、国語科学習における最も基本的な活動であり能力であると言われている。

文章を読むということは、まずは書かれた言葉を通して、初めて考えること、想像すること、あるいは推理することが可能となり、そのことが判断すること等につながっていくものと考えられる。すなわち「読み」の活動にはまず音読する能力が必要とされる。その能力に基づいて、次の段階として理解力を身につけることができ、表現へとつながっていく。さらに、繰り返すことにより確かな理解力、豊かな表現力の習得へとつながっていく。

さらに、図1からも分かるようにこの豊かな表現力の習得は、「読む力」につながると考えられる。

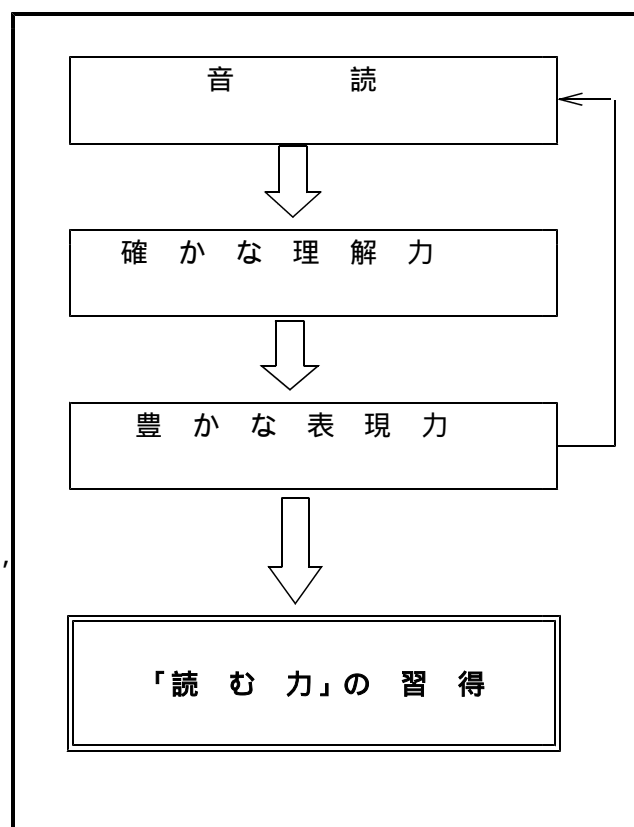


図1 読みの活動と「読む力」

### (3) 音読指導の重要性

文章の音声表現で読み取りの程度がわかる。

文章の音声表現と内容理解とは密接な関係がある。音読させると、児童がどれだけ意味内容を理解しているか、どんな理解状況にあるかが判断できる。たどたどしい音声表現しかできていない児童は、まだ十分に内容理解ができてない場合がある。

黙読時に気づかなかった内容がでてくる。

音読は、内容解釈を深める方法（手段）として大きな効果を発揮する。音読には、黙読よりも緻密な思考が要求され、上手に音読しようと意識すると、黙って読む時よりは多くの神経を使う。音読すると黙読時にあいまいでぼんやりしていたことがはっきりしてくる。黙読時に分かったつもりでも、音読してみると、不十分にしか理解していなかったことが分かってくる。また、読み落としていた内容が浮かび上がってくる。

読解授業に多様さと活気が出てくる

授業に音読を導入すると、内容理解の話し合いと同時にその内容を音声でどう表現するか、どのように工夫して表現するかの話合いが展開する。耳でも解釈深めをする授業ができる。目だけでは気づかなかった読解の浅さが耳で確認される。声にすることで自分が今まで読めていなかった内容が露呈してくる。こうして、読解授業が深く多様に活気に満ちたものとなる。

読みの楽しさが身体を通してわかってくる

音声でどう表現するかを工夫することで、イメージのあやふやな箇所がはっきりしてくる明瞭になったイメージを言葉が追いかけて、言葉にイメージをのせて、音声と意味世界を合致させて表現することで、立体感あふれた音声表現になる。さらに深い内容理解の授業が展開できる。内容理解 音声表現 の指導を繰り返すことによって、内容理解を深める指導と同時に音声表現では、意味内容がポンと前へ直接的にありありと表出できるようになる。音読の楽しさ、おもしろさが身体の響きを通して体感できるようになる。

高次の黙読の能力が身につく

音声練習を重ねることで、高次の黙読となる。つまり音読をくぐった黙読こそ、いっそう高い段階の黙読となる。高次の黙読、鍛えた黙読とは、ふだんの音読練習によって訓練された音声、素早く、黙って、脳に喚起させつつ黙読すること。音読を繰り返すことで、黙って読むときにも、自分が実際に音読するとき時に出していた豊かな音を、生き生きとした心の声として、思いうかべながら読ませる。音読指導は、高次の黙読形成の指導でもある。

#### (4) 音読の効果

音読の効果について瀬川栄志氏は（2005年明治図書）以下の点を挙げている。

文字，言語，語句を正しく捉えることができる。

誤読を発見し，訂正することができる。

読み取った内容を確実にし，理解をさらに深めることができる。

文章感覚，日本語のリズムを自然に身につけることができる。

感覚を刺激し，豊かに想像することができる。

一つ一つの文字，言葉に注意を払って読むようになる。

音声表現のおもしろさ，楽しさ，工夫に目が向くようになる。

文章内容の概略をつかむことができる。

文章の読み取りの中で，読み深めのきっかけをつくることができる。

一人一人に自信を持たせ，聞く力を育て，集中力が身につくようになる。

日常生活の中での話し言葉にもよい影響を与える。

その他にも音読の効果として自分のことだけでなく，友達のことを意識し考えようとする気持ちや，みんなの声が一つになることから和が生まれ，心が一つになる。つまりクラスがまとまっていくこと等が考えられる。

このように，音読することによって得られる効果には様々なものがある。「読む力」を養うためにも音読は最も効果的な方法の一つであると考えられる。



## 2 音読で生き生き授業づくり

教室の中で、子ども達の声が響きわたる。透る声で本を読む。友達の声に耳を傾ける。そして自分の考えに自信をもって、堂々と話す。そんな子ども達にあふれる授業をつくりたい。授業の中に「音読」を位置付け、授業の中心に据えることで、どの子どもも授業に参加できるであろう。「音読」によって、一人ひとりが生き生きと学んでいける教室をつくりたい。

### (1) 学年に応じた音読指導

基礎的技能を波及・応用して音読で基本的能力を高めるために、指導法の組織化が重要である。そのために、まず、基本的能力を明らかにし、一時間の授業で確実に基本的能力を高めることができる授業づくりをしなければならない。

表1 音読指導の学年系統表

	基礎的技能			基本的能力	統合 発信力
	発声・発音	技能	表現する読み		
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>よい姿勢で音読する。</li> <li>正しい呼吸（腹式呼吸）で音読する。</li> <li>正しい口形で音読する。</li> <li>滑舌（舌がよく動く）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなに聞こえる声の大きさを読む。</li> <li>ゆっくりと終わるまで読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大きさを工夫して読む。</li> <li>速さを工夫して読む。</li> <li>会話文の読み方に注意して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語や文として読む。</li> <li>おもしろいところや好きなところを見つけて読む。</li> <li>様子が分かるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物に手紙を書き、音読する。</li> <li>世話になった人あての手紙を読む。</li> </ul>
2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>よい姿勢で音読する。</li> <li>正しい呼吸（腹式呼吸）で音読する。</li> <li>正しい口形で音読する。</li> <li>滑舌（舌がよく動く）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大小・強弱を考えて読む。</li> <li>速さを工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大小・強弱を工夫して読む。</li> <li>速さを工夫して読む。</li> <li>会話文の読み方に注意して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつ・どこで・だれが・何を・どうしたか分かるように読む。</li> <li>気持ちが表れるように読む。</li> <li>好きなところを見つけて読む。</li> <li>話の順序が分かるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生に紙芝居を読む。</li> <li>作者あての手紙を読む。</li> </ul>
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした発声・発音で読む</li> <li>適切な音量で読む。</li> <li>適切な速さを工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>濁音・鼻濁音に気をつけて読む。</li> <li>アクセントに気をつけて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大小・強弱を工夫して読む。</li> <li>速さやリズムを工夫して読む。</li> <li>読み癖を直して読む。</li> <li>抑揚（加ミ初ス）を工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子が表れるように読む。</li> <li>登場人物の気持ちの変化が分かるように読む。</li> <li>表現の優れているところを選んで読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転校した友達に音読テープを贈る世話になった人あての手紙を読む。</li> </ul>



	基礎的 技能		基本的能力	統 合 発 信 力
	発声・発音	表現する読み		
4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした発声・発音で読む。</li> <li>適切な音量で読む。</li> <li>適切な速さで読む。</li> <li>濁音・鼻濁音に気をつけて読む。</li> <li>アクセントに気をつけて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大小や強弱を工夫して読む。</li> <li>速さやリズムを工夫して読む。</li> <li>読み癖を直して読む。</li> <li>抑揚（プロミネンス）を工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の行動や心情の変化が表れるように読む。</li> <li>場面の様子が表れるように読む。</li> <li>クライマックス場面が分かるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転校した友達に音読テープを贈る。</li> <li>世話になった人あての手紙を読む。</li> </ul>
5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした発声・発音で読む。</li> <li>母音の無声化に注意して読む。</li> <li>アクセントに注意して読む。</li> <li>会話文・地の文を読み分ける。</li> <li>強調（抑揚・間・大小）して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すように（高低イントネーション）読む。</li> <li>抑揚（強調・プロミネンス）や間を工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の主題が伝わるように読む。</li> <li>感動や要旨が伝わるように読む。</li> <li>描写の優れているところが聞き手に味わえるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前読みをする。（音読発表会）</li> <li>世話になった人に感謝の手紙を読む</li> </ul>
6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりした発声・発音で読む。</li> <li>母音の無声化に注意して読む。</li> <li>アクセントに注意して読む。</li> <li>会話文・地の文を読み分ける。</li> <li>強調（抑揚・間・大小）して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すように（高低イントネーション）読む。</li> <li>抑揚（強調・プロミネンス）や間を工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の主題が伝わるように読む。</li> <li>感動や要旨が伝わるように読む。</li> <li>描写の優れているところが聞き手に味わえるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオレターを作る。（音読発表会）</li> <li>世話になった人に感謝の手紙を読む</li> </ul>

(2005)音読・朗読・暗唱で国語力を高める



## (2) 音読を生かした指導法

それぞれの過程で、国語の力・音読の力、基礎技能が定着し、系統的・螺旋的にレベルアップするように授業を組織化する。

表2 指導法の組織化



指導過程	わ か る	か わ る	で き る
学 習 活 動	1 全文を音読し，文章を想定し，学習課題を作る	2 学習課題を解決する。 《ホップ》音読をし，中心場面・中心語句をとらえる。 ----- 《ステップ》中心語句・中心場面をもとに，音読する。 ----- 《ジャンプ》主題を頂点に各場面を立体的に把握し，音読する。	3 主題を確認し，味わって読む。 ・感動が伝わる音読・朗読・暗唱をする。
指 導 事 項	基 本 的 能 力	・文章がはっきり表れている箇所に線を引く。 ----- ・中心場面や語句をもとに感動を音読する。 ----- ・前の場面や重要語句について，感動を伝えるよう音読する。	・感動が伝わる音読・朗読・暗唱すること。
	基 礎 的 技 能	・中心場面 ・中心語句 ・間・速さ・強弱 ----- ・強調・プロミネンス ----- ・強調（間・緩急・強弱） ・高低イントネーション	・強調（間・緩急・強弱） ・抑揚 ・高低イントネーション
行 動 学 習 法	・音読・朗読法 ・話し合い法 ・課題作成法	・音読・朗読法 ・サイドライン法 ・話し合い法 ----- ・音読・朗読法 ・劇化・動作化法 ・吹き出し法 ----- ・音読・朗読法・心情曲線法	・音読・朗読法 ・暗唱法
指 導 技 術 ・ 支 援 ・ 評 価	・文章につながる「イメージ」を板書することで，学習課題を精選して設定させる。 ・主体的に課題を作らせる	・音読しながら，中心語句を見つけさせる。 ----- ・叙述に即するより，内容的価値に触れることに重点を置かせる。 ----- ・前の場面や重要語句にフィードバックをさせながら，文章を組み立て直して音読させる。	* 評価規準 A 情感豊かに音読できた。 B 叙述に沿って音読できた。



### (3) 楽しい授業にするための工夫

さまざまな読みの形を取り入れる

「音読」といっても、その方法は様々である。本時のねらいに即して「いつ・どこを・なんのために・だれに・どのように」読ませてたらよいかを明確にし、読みの効果を高めるようにする。

表3 読みの形態と効果

	読みの効果	指導の支援
自由音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のテンポで好きなように読める。</li> <li>自分で味わい、考えながら読める。</li> <li>常に音読の技術を個々につけられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人読みのできない子は、できるだけ教師がついて一通り読み通せるように配慮する。</li> </ul>
一斉読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉に声を出すことは、うれしくて楽しいことであり開放感がある。</li> <li>みんなで力を合わせているような感じがする。</li> <li>気持ちを集中することができる。</li> <li>気の弱い子や、読む力の劣っている子が読みに参加できる。</li> <li>気持ちの高まりや、会話の部分など、特に読みたいことが表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全文を通して一斉読みさせるのは意味がない。特に注意させたい表現を取り上げて、部分的に音読させることが効果的である。</li> <li>列・男女・グループなど読ませる集団を工夫すると楽しい読みになる。</li> </ul> 
指名読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の読みの能力を捉えることができる。</li> <li>読みの理解度が評価できる。</li> <li>読みの喜びを与えることができる。</li> <li>発音・アクセント・区切り方・読み誤りなどのつまづきをなおすことができる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する子だけを指名するのではなく、読ませるめあてをはっきり持って、意図的・計画的に行うようにする。</li> <li>終末によい読みを聞かせることは、余韻が残る。優れたもののみ指名しないことが大切である。</li> <li>導入時と途中に、同じ子どもに読ませることにより、変容を見ることができる。</li> </ul>
役割読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージを描く読みができる。</li> <li>役柄に合うように読もうとする。</li> <li>聞き手にもそれぞれの読みが人物の心情を捉えているかどうかわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に読ませる部分を決めておき、読みの劣る子の出番もつくってあげるようにする。</li> <li>紙芝居・ペープサートなどを活用し音読の工夫をさせる。</li> </ul>
群読	<ul style="list-style-type: none"> <li>各パートを一人で読んだり、数人または大勢で読んだりしてドラマチックに展開できる。</li> <li>授業の平板化を救うだけでなく、音読の不得意な子どもを引き入れて、言葉の響きの美しさに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章をどのように分けるか考えさせる。</li> <li>人物の話し言葉の読み手を決めるさせる。</li> <li>男声か女声かを内容を合わせて考えさせる。</li> <li>情景描写などの抑揚の付け方を考えるさせる。</li> </ul>

リ レ ー 読 み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文・場面ごとに順番に読んでいくもので文意識，段落意識を育つ。</li> <li>・全員が文章全体の音読を完成させていくというおもしろさがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習する場合は，一人分の区切りを短めにする。</li> <li>・リレー形式は，ともすれば読む速度が速くなりがちなので，ゆっくり読ます。</li> </ul>
範 読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手にあらかじめ留意点を指摘できる。</li> <li>・興味や関心をそそらせる。</li> <li>・読み手の模範を示すことなどなどに，子どもの音読が高まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の情景や，登場人物の心情を豊かに想像できる部分を聞かせることによって，読みは深まる。</li> </ul>
ペ ア 読 み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と聞き合いながら読むことができる。</li> <li>・相互評価しながらお互いに高めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスのよいペアの組み合わせをする。</li> </ul> 
グ ル ー プ 読 み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでいろいろな工夫をして読むことができる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫を生かすことにより，お互いに高め合い，深い読みをすることができる。</li> </ul>

録音テープを活用する。

読み声を録音するだけで教室に楽しい緊張感が生まれるものであるが，これを学習に活用すると一層効果的である。（個人用の音読録音テープを持たせる。）

ア 読み方の工夫に使う。

個人の読み声を録音し，繰り返しそれを聞いて読み方の工夫をする。

イ 評価に使う。

学習前の読み方と学習後の読み方を録音して比べ，良かった点や改善を要する点などについて評価する。

読み手の位置に変化をつける。

いつでも自分の席で読むだけでなく，会話の場面は二人向き合うとか，立つものと座るもの，円陣を作ったり一列になったり，文章内容に合わせた読み手の位置を工夫すること，場面が立体化しておもしろい。

文章を書き写す。

よく分かっている内容の文章は上手に読める。したがって，文章を書き写してから音読させると，つまづかずすらすら読め，人前でも自信を持って大きな声で読み通せるようになる。また，大きな声で読み通せたという経験から，読みの学習に進んで取り組むようになる。


徹底的に訓練する。

繰り返し音読させることは，楽しい学習ではないかもしれない。子どもは，2～3回読めば，もうこれで大丈夫とすぐに安心してしまう。しかし，「読みの力」をつけるためには，一人一人の子どもが何回も繰り返し音読することが必要である。

#### (4) 音読記号の種類

音読記号をどんな記号にするか児童と共に決め、文章余白に音読記号を付けさせる。そしてどのような音調で表現していくとよいか考えさせる。人物の気持ちがよく表れているところ、情景描写のよいところ、文章表現の巧みだと思えるところなどについても記号付けすると、言語感覚が育つ。

表4 音読記号

	記号	しるしの説明
間あり	《 《	・ は一つあけ 《は二つあけ 《は三つあける。
強調	~~~~~	・ 言葉の意味，内容を強調して読む。目立つように読む。
弱く	-----	・ 弱く読む。
速く	=====	・ スピードをつけて速く読む。
ゆっくり	~~~~~	・ ゆっくりと，思いをたっぷり入れて読む。
声の上げ下げ		・ しり上げ しり下げ。
区切り	( )	・ かっこの中はひとつながりに読む。
転調		・ これまでの読みの調子を変える。 ・ 声の調子を新しくして読み始める。
声の大きさ		・ は最小      は普通      は最大

記号だけでは、微妙な声の表れの違いを書き表すことができない時がある。その時は、文章のそばに短い言葉を書くようにする。

(例)	・ 笑いながら	・ おこったように	・ さびしように
	・ 口ごもって	・ 優しそうに	・ どなるように
	・ 泣き声で	・ ささやくように	・ 暗く，沈んで
	・ くやしように	・ 問いかけるように	・ いばったように
	・ がっかりして	・ 思い出して	
	・ はずかしように	・ 明るく弾んで	

記号付けは、音声表現を立体的に躍動させるための視覚的表示である。記号を書き込むということは、解釈を深める学習をすること。どこをどんな感じで、どう工夫して音声表現するかを分析することは、文章の意味、論理に導かれて読みを深めることであり、子どもに深い解釈を要求することになる。記号付けは、自己の解釈をはっきりと定位する学習活動である。

### (5) 音読を生かした授業の展開

授業に変化を持たせ、児童が興味を持って、進んで音読ができるようにいくつかの読みの形態を取り入れる。

単元を通しての指導過程

単元を「わかる」、「かわる」、「できる」の3つに分け展開する。

表5 授業の展開と音読の位置づけ

過程	めあて	学習活動	音読の位置づけ
わかる	・文章を理解するために正しく音読する。	・全文を読み、学習のめあてをつかむ。 ・範読を聞き、初発の感想を書く。 ・分からない文字や語句を調べながら文章のあらすじをとらえる。	・叙述を正確にする音読（範読） ・文意をとらえるための音読（一斉読み、一人読み） ・考えるための音読（指名読み、一人読み、リレー読み）
かわる	・理解を深めるために工夫して音読する。	・前時の想起、本時の場面把握 ・各自が課題について考えながら音読する。 ・役割を分担し、読み方を工夫し、理解を深める。	・確かめるための音読（一人読み、指名読み） ・考えるための音読（指名読み、一人読み） ・イメージを描くための音読（役割読み、リレー読み、群読）
できる	・内容がよくわかるように音読する。	・朗読発表会（理解したことを他人に伝えるために、気持ちをこめて朗読する。）	・表現活動へとつなぐ音読（役割読み、群読、一斉読み）

一単位時間の指導過程

一単位時間もさらに「わかる」、「かわる」、「できる」と分け、音読を位置づける。

過程	学習活動	効果的な位置づけ
わかる	・学習のめあてを確認する。	・一斉読み、指名読み
かわる ホップ ステップ ジャンプ	・めあてにそって読みを深める。 ・叙述にそって読み取ったことを話し合い音読する。 ・読み方の工夫をする。	・指名読み、リレー読み、一人読み ・グループ読み、一人読み、役割読み ・グループ読み、役割読み
できる	・気持ちをこめて音読をする。	・役割読み、範読、群読、一斉読み

### 3 定着させたい音読スキル

正しく、美しく、分かりやすい音読をするには、正しい発声・発音が不可欠である。この練習は、1年生から行うがどの学年も大切なものである。つまり、音読をするには学年や年齢を問わず、いつでも正しい発声・発音が基本である。音読をする前には、発声・発音をしっかりとる。文章の内容がよく表せるように、分かりやすい発音、聞き取りやすい発音が基本である。

#### (1) 音読で基礎的技能を高める

読みの基礎技能は音読で高められる。読みの基礎的技能には、発音、発声、アクセント、イントネーション、間、プロミネンス等がある。基礎的技能を高めるには、一技能を取り立てて、丁寧に指導し体で覚えさせることが大事である。また、詩集や音読集などで、一人一人の興味・関心のある作品を選び、暗唱まで高めるようにする。音読発表会を開くなどの場を設定することは、児童の意欲をかき立てることになる。音読タイムや音読カード等を使って意欲付けをし、発表の機会を設けることで、さらに意欲が増すものとする。

#### (2) 音読の基礎

本を読むときには、足を肩幅ぐらいに開いたよい姿勢で、しっかりお腹で息をすってたっぷりの息で声を出す。発音を明瞭にし、声をしっかり出す。

表6 声を出す4つの秘密

<p>発声・発音 声を出す4つの秘密</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい姿勢 ・正しい呼吸 ・正しい口形 ・滑舌</li> <li>いい姿勢・・・立つ・背中をぴん・お腹に手を当てまっすぐ立つ。(また、座る)</li> <li>正しい呼吸・・・腹式呼吸を意識的に行う。お腹をふくらませたり、引っ込めたりする。</li> <li>正しい口形・・・母音の形を覚える。</li> <li>ア・・・大きな の形で</li> <li>イ・・・横に一文字に</li> <li>ウ・・・口を小さく前に丸く</li> <li>エ・・・横長四角に開ける</li> <li>オ・・・縦長の で</li> <li>滑舌・・・はっきり発音するには、舌がよく動くことが大事である。レロ、レロ・・・(20回～30回ぐらい繰り返す。)</li> </ul>
---

#### (3) 音読の基礎技能

音読が正しくスラスラできるために遊びの要素を取り入れた、発声・発音が効果的である。

##### 母音三角形

ア 日本語の基になる発音の仕方をしっかり練習させる。母音は、口の開け方や舌の位置によって、それぞれ違った音になる。

イ 母音三角形の図を教室に掲示して発音ができるようにする。

アーオーウ だんだん口を平たく。

イーウ 口を小開きに。

エーオ 中間ぐらいの開け方で。

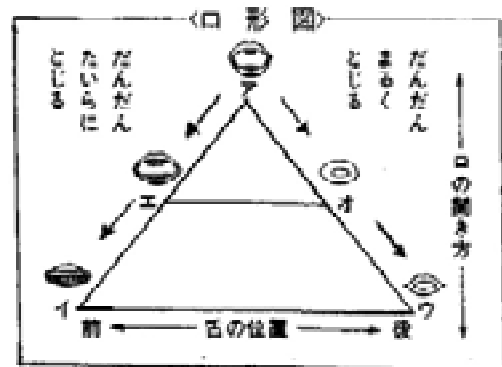


図2 口形図

口の体操，早口ことば，ことばの遊び

発音を正しくするために，五十音図によって母音，子音の一音一音を正しく練習することは大切だが，子ども達が興味を持って持続できるように，口の体操，早口ことば，ことば遊びなどを取り入れて，変化を持たせるようにする。

(以下，日常の実践からいくつかの例を上げて記載する。)

●アエイウエオアオ

ていねいにはぎれよくはつ音<sup>ツ</sup>しましよう。

ありきん	あつまれ	ア	エイ	ウ	エ	オ	ア	オ
かにきん	かきこそ	カ	ケ	キ	ク	コ	カ	コ
さかだち	さかさま	サ	セ	シ	ス	ソ	サ	ソ
たのしい	たこあげ	タ	テ	チ	ツ	ト	タ	ト
ならんで	なわとび	ナ	ネ	ニ	ヌ	ノ	ナ	ノ
はなたば	はなびち	ハ	ヘ	ヒ	フ	ヘ	ハ	ホ
まえより	まじめに	マ	メ	ミ	ム	モ	マ	モ
やつぱり	やさしい	ヤ	エ	イ	ユ	ヨ	ヤ	ヨ
らくだい	ライオン	ラ	レ	リ	ル	ロ	ラ	ロ
わんぱく	わいわい	ワ	エ	イ	ウ	エ	ワ	オ
がまんだ	がんばれ	ガ	ゲ	ギ	グ	ゴ	ガ	ゴ
ざわざわ	ざぶざぶ	ザ	ゼ	ジ	ズ	ゾ	ザ	ゾ
だんだん	だぶだぶ	ダ	デ	ヂ	ヅ	ド	ダ	ド
ばんごう	ばらばら	バ	ベ	ビ	ブ	ボ	バ	ボ
パアソル	ばらばら	パ	ペ	ピ	プ	ポ	パ	ボ

(濁音、半濁音、拗音の発音練習)

ガギグゲゴガゴ キヤクキケキヨキヨキヤキヨ  
 ザゼジズゼゾザン シヤセシシユセシヨシヤシヨ  
 ダダヂヅデドダド チヤアチチユチチヨチヤチヨ  
 バベピアペボバボ ニヤホニニユホニヨニヤニヨ  
 ハヘヒアヘボハボ ヒヤヘヒユヘヒヨヒヤヒヨ

●早口ことば

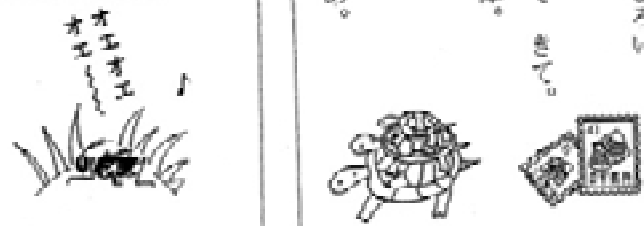
むこうの 竹がきに 竹 立てかけた。  
 ことなりの きやくは よく かき 食う とやくだ。  
 においの 強い ふじの 花。  
 のなまむぎ なまごめ なまたまご。  
 ちしおの ひいた ひがたで 届ひろい。  
 ちきつと きつて かって きて。  
 ちきつと きつて かって はつて きて。  
 ちらくたの 体 どんだらけの 体。  
 ちおやがめの うえに こがめ。  
 ちおやがめの うえに こがめ。  
 ちおやがめの うえに まごがめ。  
 ちおやがめの うえに ひまごがめ。

へオエ語で歌うー虫のこえ

唇や舌の動きに気をつけて歌う。  
 オとエでは、あこの動かし方  
 もちがいます。  
 イウ語やアエ語でもやってみ  
 るといいですね。

へし口語で歌うーカエルの歌

舌を出したりひっこめたりしながら  
 曲に合わせて歌う。はじめはゆっくり、  
 次第にはやくしていく。





口、鼻、舌の動きを止めなければなりません。

顔の体操、百面相(ヒューン)

げき辛おせんべ丸かじり  
アグッ アグ アグ アグ  
うわっ！ 辛い！ 辛い 辛い 辛い  
さいるいレモンの丸かじり  
アグッ アグ アグ アグ  
おー すっぱい！ すっぱい すっぱい すっぱい

青いしぼ柿丸かじり  
アグッ アグ アグ アグ  
うえーっ！ しぶい！ しぶい しぶい

赤いりんごの丸かじり  
アグッ アグ アグ アグ  
あー 甘い ニコ ニコ ニコ

ふうせん大きく ふくらませよう！  
ふうふう ふう ひゅっここ口で  
ふうふうふう

○二人組で向かい合い、大げさな表情で動作化しよう。  
○アグッアグはあごを大きく動かす。  
○すっぱくてたまらない顔。  
○しぶいの「し」の口形をはっきり。  
○顔の筋肉をゆるめてニコ ニコ うれしきよう。

簡単口(ヒューン)

早口ことばしているかい  
おやゆびしっかりにきりしめ  
くちびるじゅうぶんしめらせて  
あたまをひやして しずめるんだ  
なまむぎ なまこめ なまたまご

(後略) 藤田幸雄

笑い方 アイウエオ

ごん太が笑う アッハッハッハッ  
魔法使いは イフヒッヒッヒッ  
おねえさんは ウッフッフッフッフ  
おにいさんは エッヘッヘッヘッ  
おすましおばさん オッホッホッホッ  
みんなで笑おう ワワッハッハッハッ

顔の筋肉がやわらかくなると口もなめらかに動きます。

くちびるたいせう  
わらわないで できるかな  
くちびるたいせう  
は は はひよへは  
ほ ほ はへよひは  
は は はは  
ほほほ はは  
できた できた (後略) まど・みちお

「は」「ほ」の音をはっきり



テラセメント


息をしているから生きがよい。(イキ イキ)  
警察の人が歌謡のけいこ。(ケイコ ケイコ) ケイコ  
体押はたいそう好きです。(タイソー タイソー)  
原の中で腹が痛くなった。(ハラ ハラ)  
橋の端をはしを持って通る。(ハシ ハシ) ハシ

群読

ゆきがふる まど・みちお  
ふるふる ふるふる ゆきがふる(ソロ・数人・全員)  
ゆきを みあげて たつ ぼくに。(ソロ)  
ふるふる ふるふる ゆきがふる(数人・十人・全員)  
とつぜん ぼくは のぼって。(ソロ)  
ふと きがつくと ゆきがふる(ソロ・全員)  
せかいじゅうから

くくの練り返しが三回、だんだん人数を増やして、文化をつけ、雪が降り続く様子を音読してみましよう。

(後略)



群読を演しもう(七・五調)

さやさやと かぜのゆくみち (女・男)  
ふわふわと たびをつづけて (女・男)  
みおるせば いちめんのあお (男・女)  
やわらかく うたいつづけて (女)  
かざりなく 降れるすがたよ (男)  
みおるせば 降れるすがたよ (全・男)  
みおるせば はるかなるうみ (女・全) 寒、うみよ  
あいうみは ぼくのふるさと (男・ソロ) 工藤直子

直クラスを二つに分けるなどして、声の遠いを強しむ

#### (4) 音読するときの主なきまり

音読をするときの主なきまりについて話し合い，正しく自然に読むようにする。内容がわかれば，伝えたいことがわかるので音読のきまりを思い出し，自然な読み方をする。文章を読むことは，言葉を伝えることと意識する。

表7 音読のきまり

高低イントネーション	・文の始め（頭）が高いトーンから入って行く。 音楽のフレージングと共通
プロミネンス（粒立て）	・中心になる言葉をはっきりさせる。 強調しすぎることはないが，はっきりさせる心遣いは必要。
間	・わざと取るのではなく，読み手が文章全体にのってくると，自然にうまれてくる。
転調	・段落の変わり目，他の文と会話文の切り換え，語句の後，時には読点の後にトーンを変える場合がある。
助詞力み	・助詞のところで読点が打たれていることが多いが，そこで，立ち止まって助詞を力んでしまうと，耳ざわりである。
句読点の扱い	・はっきり切って読むべきか，ちょっと止まるだけで一つの息で続けた方が意味通りになるか，調べていく（一般に読点の後は高く入ることが多い）。
ぶつぶつ切れた読み	・文章が内容的に全体のまとまりを欠いた表現になってしまう。
呼吸と読みのスピード	・息を十分吸って読む。 聞き手が文章全体の意味・内容をすぐ理解できるスピード。
全体のトーン	・明暗や色調を大切にし，作品の生命が損なわれないようにする。

(2005)音読・朗読・暗唱で国語力を高める

## 指導の実際

### 1 朝の音読タイムの実践

(1) めあて 朝の音読タイムで音読の基礎をつくる。

(2) 実施日 毎週木曜日 8時15分から30分

(3) 練習方法 ステップワーク（明治図書）を使用

高学年のステップワークについての説明

本ワークは 正しく読む（音読の基礎学習） 深く読む（朗読の基本学習） 豊かに読む 心に響く名作集（資料集）という構成になっている。

表8 ステップワークの段階

「正しく読む」	基礎的な技能や感覚を身につけることを、目標にしている。 ・はっきりした発音や発声 ・声の大きさや速さ ・句読点や意味の切れ目を中心にした、間やリズムなどを中心にして。
「深く読む」	繰り返し読みながら、内容を理解し内容に沿った読み方ができる。 基礎的な音読技能を身につけさせた上で、さらに内容にも目を向けるさせ、そのため、内容に関する質問が2～3問入っている。
「豊かに読む」	これまでの基礎的・基本的な学習をもとにして、暗唱にまで広げることを目標にしている。

### (4) 音読タイムの過程

今日のめあて 言葉に気をつけながら天気予報を正しく読もう。

題 天気予報

展開

児童の活動	形態	留意点	時間
1 めあてをつかむ。 2 発声練習をする。 音読係がリードする	一斉	・おなかから声を出すようにさせる。	3分
3 音読する。 1回目はゆっくりと読む。 少しスピードをつけて読む。 本番前の練習をする。	一人読み	・天気の情報に正確に伝わるように読ませる。	4分
4 キャスターになったつもりで読む。	ペア読み	・友達と一文ずつ読ませる。	3分
5 天気予報を伝える。	ル-読み	・友達の声をしっかりと聞かせる。	2分
6 自己評価する。	一斉	・お天気キャスターになったつもりで読ませる。 ・しっかりと顔をあげて読ませる。	2分
		・3段階で評価させる。	1分

(5) 年間の指導内容

ステップワークを活用して練習をする。易しい読みからステップを踏んでレベルアップできるようにする。

表9 音読の基礎をつけるための計画

月	めあて	題	材
4月	正しい発声発音をする	発声, 発音の練習	
5月	正しく読む	・早口言葉    ・十二支	・春の七草    ・いろはカルタ
6月	正しく読む	・坊っちゃん    ・蜘蛛の糸	・竹取物語
7月	正しく読む	・天気予報    ・短歌を詠もう	
9月	正しい発声発音をする	発音, 発声の練習	
10月	正しく読む	・スポーツ中継	
	深く読む	雨にも負けず	
11月	深く読む	俳句    ・学問のすすめ	
12月	深く読む	・ニュース    ・お経をつくろう	
	豊かに読む	汚れつちまった悲しみに	
1月	豊かに読む	・竹    ・初恋	
2月	豊かに読む	・荒城の月    ・平家物語    ・論語	
3月	豊かに読む	・ことわざ    ・やまかつぎ	
	ふりかえる	・これまで暗唱してきた詩	

心あそ

特別な言葉に気をつけながら、天気予報を正しく読みましょう。

天気予報

こんにちは、お昼の天気予報です。  
 現在、前線が日本付近に横たわっています。冷たい雨雲は東の空にぬけましたが、太平洋側では、今後まだまだ激しい雨のふる恐れがあります。気象庁では、十分注意するよう呼びかけています。( )地方では、日中少し曇り、何とか天気は持ちそうですが、今夜は、ところによって、小雨が降るでしょう。

明日は( )地方を境とする予報が出ています。雨脚の強まる恐れがありますので、十分な気をつけてください。

各地の気温は、一工夫のとおりです。二十三度前後の所が多く、昨日よりは暖かくなるでしょう。

降水量は、文部では五十センチ、青森下が十センチ。

風の半ばかりは、気温も上がり、蒸し暑い日が続くそうです。

お昼のニュースでした。

※( )の中は、自分の住んでいる地方の名前を入れてください。

一 漢字に気をつけて読んでみましょう。

○ゆづいり一雨一雨を大切に読んでみましょう。

ゆ	づ	い	り	一	雨	一	雨
---	---	---	---	---	---	---	---

○あしあし読む読んでみましょう。

あ	し	あ	し	読	む	読	む
---	---	---	---	---	---	---	---

○もやあしあし読む読んでみましょう。

も	や	あ	し	あ	し	読	む
---	---	---	---	---	---	---	---



天気予報は、情報に正確に伝わるのが必要です。  
 そのためには、まず、はっきり口を開けて、ゆづいり読むことが大切です。  
 また、意味をよく理解して読みながら、相手に伝わりやすく伝わりましょう。

二 意味をよく考え読んでみましょう。

ゆ	づ	い	り	一	雨	一	雨
---	---	---	---	---	---	---	---

三 友だちと一文字ずつ読んでみましょう。

ゆ	づ	い	り	一	雨	一	雨
---	---	---	---	---	---	---	---

四 みーんのさんざん練習に読んでみましょう。

ゆ	づ	い	り	一	雨	一	雨
---	---	---	---	---	---	---	---



あつと下を向いて  
 読んだらを真ん中で  
 むと、天気予報の感  
 じが伝えます。  
 時々、前を向いて、  
 みんなの顔を覗き  
 みながら読んでみま  
 しょう。  
 あつと、お天気予  
 報スターになっただ  
 んに覚えましょう。

おのれさび

天気予報を正しく読めるようになったら、



## 2 授業実践

# 国語科学習指導案

期 日 平成19年 2月 7日(水)  
対 象 久松小学校5年1組  
男子11名 女子10名 計21名  
授業者 与那覇 彰 子

1 研究テーマ 「読む力」を育てるための国語科学習の展開  
—— 音読指導の工夫を通して ——

2 目指す子ども像 教科書をスラスラと音読でき、「読む力」を身につけた子ども

3 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう  
題材名 「わらぐつの中の神様」「方言と共通語」

### 4 単元目標

#### (1) 総括目標

行動描写・会話などから人物像を読み取る方法を知って読み、人物の考え方・生き方について自分なりの感想をもつ。

方言と共通語についての知識をもち、関心を深める。

#### 観点別目標

##### 【読むこと】

登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述に即して読む。(ウ)

現在 - 過去 - 現在という物語の構成とその効果について理解する。(ウ)

##### 【書くこと】

読み取った内容に関する自分の考えを読み手によく分かるように工夫して書くことができる。(エ)

##### 【話すこと・聞くこと】

考えたことや自分の意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら話すことができる。(ア)

話し手の意図を考えながら聞くことができる。(イ)

##### 【言語事項】

方言と共通語の違いを理解する。カ(イ)

物語の展開の工夫(現在 - 過去 - 現在)に気づく。オ(ア)

### 5 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容C「読むこと」、ウ「登場人物の心情や場面について描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を受けて設定されたものである。作者である杉みき子さんは、この作品について次のように語っている。

「あんな美しい雪げたにあこがれる少女は、心もやはり美しくあって欲しい。親に甘えず、自分の労働によって欲しいものを手に入れようとし、その手段として作り始めたわらぐつな

ののできあがった品物は、素朴で誠実な少女の心をそのまま反映して、雪げたどころか、素敵な若者まで手に入れてしまうことになる。現在、子どもたちの生活の中にも、マスコミなどを通して様々な「愛」の話題が入り込んでいます。いずれは、それぞれ複雑な人生に立ち向かってゆかねばならぬ子どもたちですが、この時期にはぜひとも、単純で健康で素朴な愛の形に触れて欲しい。そんな思いもあって生まれた筋書きでした。働くことを愛し、人の身になって考え、人間の値打ちは見てくれではなく心だと思っているこの若者と娘が、私は今でも好きなのです。」（光村出版指導書）

わらくつや神様に対して「みったくない。」「そんなの迷信でしょ。」と言っていたマサエの気持ちが、「おばあちゃんの昔語りであるわらくつの中に神様がいなさった話」を聞いて、「雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」とかわっていきます。おみつさんのわらくつを編む態度や若い大工さんのものの見方や考え方から、おばあちゃんの伝えなかった神様の意味をマサエが少しずつ受け止めていきます。しかも、おみつさんと若い大工さんが実は一緒に暮らしている祖父母であったことを発見するのです。

その驚きが、祖父母の暖かい真心や生き方に感動するマサエの姿となっていきます。作品の結びで雪げたを抱えたまま飛び出していくマサエの姿を子どもたちが自分に引き寄せてみるることができるようにしていきたいと思います。

## (2) 児童の実態について

国語についてのアンケートを実施したところ、次のような結果が出た。  
（国語アンケートの結果）

1. 国語学習は好きですか。			
はい（13名）	いいえ（8名）		（10月実施）
はい（16名）	いいえ（5名）		（12月実施）
2. 音読は好きですか。			
はい（14名）	いいえ（7名）		（10月実施）
はい（19名）	いいえ（2名）		（12月実施）
3. 音読すると、話の内容がよくわかりましたか。			
はい（18名）	いいえ（3名）		（10月実施）
はい（21名）	いいえ（0名）		（12月実施）
4. 音読は、上手だと思いますか。			
はい（3名）	いいえ（18名）		（10月実施）
はい（5名）	いいえ（16名）		（12月実施）
5. 一人読みの時、大きな声で読めますか。			
はい（12名）	いいえ（9名）		（10月実施）
はい（14名）	いいえ（7名）		（12月実施）
6. 音読をするとき、どんなことに気をつけていますか。			
・口を大きく開けること			
・大きな声ではっきりとした発音で読むこと			
・「。」「、」に気をつけて読むこと			

- ・お腹から声を出すこと
- ・文章を正確に読むこと

7. スラスラと読めますか。

はい (13名)	いいえ (8名)	(10月実施)
はい (16名)	いいえ (5名)	(12月実施)

8. 音読は、必要だと思いますか。

はい (20名)	いいえ (1名)	(10月実施)
はい (21名)	いいえ (0)	(12月実施)

9. 音読が必要と思うわけはなんですか。

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ・国語の学習以外でも必要だから。 | ・発音が上手になる。(きれいになる) |
| ・記憶力がアップする。      | ・あいさつがはずかしがらずにできる。 |
| ・心が落ち着く          | ・文章がスラスラと読めるようになる。 |
| ・表現力がつく          | ・自然に大きな声が出る。       |

(考察)

・本学級の児童は、音読が好きと答える児童が多く(12月のアンケート調査)、朝の音読タイムが音読に親しむきっかけとなっているのではないだろうか。12月に実施したアンケートの結果では、音読すると話の内容がわかるという質問に対して、分かったと全員の児童が答えている。児童はこれまでの音読タイムを通して音読の効果を感じ取っている様子がみられる。そのことから、音読の必要性についても感じていることがわかる。

(3) 指導について

国語科学習全般にわたって、音読や朗読を積極的に活用することは、大切なことであると考えられる。

本教材は、読み手の注目のしかたに応じて、さまざまなおもしろさを見せてくれる。構成の巧みさ、個性的な登場人物、小道具(わらぐつ、朝市、雪げた、道具箱など)の味わい、転換する場面、印象的なせりふなど多くの要素を持っている。

そこで、児童が感じたことを発表させたり、話し合わせたりしながら音読や朗読を通して読みを深め登場人物の人物や考え方をとらえさせていきたい。

また、繰り返し音読や朗読をすることにより、「書かれている内容が理解しやすくなる」「感動が深まりやすくなる」「豊かな表現ができるようになる」のではないかと考え、学習の中に積極的に音読を取り入れ、指導に当たりたい。

6 研究主題との関わり

「読む力」を育てる手段として、いくつかの方法があるが、本研究では音読活動を取り入れた国語科学習を展開し、「読む力」を育てていきたい。

語や文をひとまとまりとして捉える力をつけるには、音読させることが大切であると考え。そのために、国語科学習の中に、音読活動を取り入れ、児童が興味をもって学習できるように工夫をする。いくつかの読みの形態を取り入れたりと、繰り返し音読させることにより、読みの幅を広げたり、言葉や文意を意識し、内容理解をより深めたりすることが期待できる。



## 7 学習計画 (10 時間)

	ねらい	学習活動	指導・支援の工夫	評価と方法	
わか か る	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を読んで、感想を書くことができる。</li> <li>口形に気をつけ、進んで音読ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範読を聞き、音読をする。</li> <li>感想を書き、交流する。</li> <li>音読記号をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな話の内容か考えながら範読を聞かせる。</li> <li>一斉読み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範読を聞いて、物語に関心を持ち、自分の感じたことを書くことができる。</li> <li>ワークシート</li> <li>発言</li> <li>自己評価カード</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の時代背景やわらくつ、雪げたなどについて知り、わからない語句に立ち止まることができる。</li> <li>口形に気をつけ音読ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の時代背景やわらくつ、雪げたについて知る。</li> <li>語句調べをする。</li> <li>文章の内容を考えながら音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わらくつ、雪げたを用意する。</li> <li>国語辞典の引き方の確認</li> <li>一人読み</li> <li>一斉読み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わらくつや雪げたに興味を示し進んで文中の語句を拾って調べる。</li> <li>ノート</li> <li>自己評価カード</li> </ul>
わか か る	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現在－過去－現在」の3つの場面構成に気づくことができる。</li> <li>登場人物の人柄を大まかに捉え音読ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を3つの場面に分ける。</li> <li>人物の人柄を考えながら音読する。</li> <li>登場人物の人柄を考え、ワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いつ、どこで、誰が、何をしているか」を押さえていく。</li> <li>リレー読み</li> <li>役割読み</li> <li>一斉読み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現や叙述をもとに場面分けをし、登場人物の人柄を捉えている。</li> <li>ワークシート</li> <li>自己評価カード</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>おばあさんとマサエの会話や様子から二人のわらくつに対する見方の違いを読み取ることができる。</li> <li>進んで音読をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一場面を音読する</li> <li>おばあさんとマサエのわらくつに対する気持ちが分かる場所に線を引き、自分の考えを持つ。</li> <li>読み取ったことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰が何と言っているのか、印をつけさせ明確にしておく。</li> <li>一人読み</li> <li>ペア読み</li> <li>グループ読み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読記号に沿って音読している。</li> <li>おばあさんとマサエのわらくつに対する気持ちの違いに気づいている。</li> <li>進んで音読ができたか。</li> <li>ワークシート</li> <li>音読</li> <li>自己評価カード</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>おみつさんの気持ちを考えながら、進んで音読ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二場面を音読する。</li> <li>おみつさんの雪げたへの思いが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雪げたを見るおみつさんに着目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おみつさんの気持ちを考え、音読している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おみつさんの雪げたに対する思いを読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ るところに線を引き、自分の考えを持つ。</li> <li>・ 読み取ったことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一斉読み</li> <li>・ リレー読み</li> <li>・ 役割読み</li> <li>・ 朗読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現や叙述をもとにどうしても雪げたがほしいおみつさんの気持ちの変化に気づいている</li> <li>・ 音読</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おみつさんのわらぐつに対する思いや人柄を読み取ることができる。</li> <li>・ おみつさんの気持ちが表れるように工夫して、音読することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二場面を音読する。</li> <li>・ おみつさんのわらぐつへの思いや人柄が分かるところに線を引き、自分の考えを持つ。</li> <li>・ 読み取ったことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おみつさんは、わらぐつを編む時にどんなことを思いながら編んだか考えさせる。</li> <li>・ 一人読み</li> <li>・ グループ読み</li> <li>・ 役割読み</li> <li>・ 朗読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おみつさんの気持ちが表れるように工夫して音読している。</li> <li>・ 表現や叙述をもとにおみつさんのわらぐつに対する思いや人柄を捉えている。</li> <li>・ 音読</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>
7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大工さんの人柄や仕事に対する考え方を読み取ることができる。</li> <li>・ 進んで音読をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大工さんの人柄や仕事に対する考え方が表れている言葉に着目する。</li> <li>・ おみつさん、大工さんの言葉にラインを引き自分の考えを持つ。</li> <li>・ 読み取ったことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大工さんの言葉に注意して、大工さんの考え方を読み取るようにさせる。</li> <li>・ 一人読み</li> <li>・ グループ読み</li> <li>・ 役割読み</li> <li>・ 朗読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大工さんの人柄や仕事に対する考えを読み取っている</li> <li>・ おみつさんと大工さんの気持ちを音読で表している。</li> <li>・ 音読</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 自己評価カード</li> <li>・ 相互評価のカード</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マサエの言葉や行動、様子から、マサエの心の変化を読むことができる。</li> <li>・ マサエの心の変化を音読で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三場面を音読する。</li> <li>・ マサエの心の変化が分かるところに線を引き、一場面と比べてどう変化をしたか考える。</li> <li>・ マサエの心の変化をワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主人公のマサエに同化させて作品を読み進めさせ、おばあちゃんが大切にしているものを読み取らせ、マサエの変化に気づかせたりする。</li> <li>・ 一斉読み</li> <li>・ リレー読み</li> <li>・ 役割読み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現や叙述をもとにマサエのわらぐつに対する思いの変化に気づいている。</li> <li>・ マサエの心の変化がわかるよう音読している。</li> <li>・ 音読</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 自己評価カード</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わらぐつの中の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の中に出てく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠州地方の方言の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の中の方言や</li> </ul>

		<p>神様」の中で使われている方言や自分たちの方言を見つけ、方言のよさに気づくことができる。</p>	<p>る方言を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方言のよさについて気づいたことを発表したり、書いたりする。</li> <li>・方言のあたたかさが伝わるように音読する。</li> </ul>	<p>一覧をあらかじめ教師が用意して提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段使っている言葉の中に方言があることを気づかせる。</li> <li>・一斉読み</li> </ul>	<p>自分たちの方言を見つけ、方言のよさに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方言のあたたかさが伝わるように音読する。</li> <li>・音読</li> <li>・ワークシート</li> <li>・自己評価カード</li> </ul>
で き る	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像の考え方や生き方が聞き手に伝わるように朗読ができる。</li> <li>・友達の朗読を聞きよさを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに朗読発表をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に話の内容が伝わるように朗読させる。</li> <li>・友達の発表をしっかりと聞き、よさを認め合う。</li> <li>・評価カードに記入させる。</li> <li>・各グループの工夫した読み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像や考え方、生き方が聞き手に伝わるように朗読している。</li> <li>・朗読</li> <li>・相互評価カード</li> <li>・自己評価カード</li> </ul>



## 8 本時の学習指導

### (1) 本時の目標

- ・音読を手がかりに，大工さんの人柄を読み取ることができる。
- ・進んで音読をすることができる。

### (2) 授業仮説


- ・大工さんの言葉に着目させ音読することにより，大工さんの人柄を読み取ることができるであろう。
- ・音読を効果的に取り入れることにより，進んで音読に取り組むであろう。

### (3) 準備するもの

ワークシート わらぐつ 相互評価カード 自己評価カード

### (4) 展開

過程	学 習 活 動	形態	支 援・留意点	評 価						
わか	<p>声のトレーニング。</p> <p>1 学習のめあてと方法を確認する。</p> <p>(1) 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">音読を手がかりに，大工さんの人柄を読み取ろう。</div> <p>(2) 学習方法を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ホップ</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ステップ</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ジャンプ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">・音読記号 をつける</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">・話し合い と音読練 習する。</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">・大工さん になり音読 する。</td> </tr> </table> </div>	ホップ	ステップ	ジャンプ	・音読記号 をつける	・話し合い と音読練 習する。	・大工さん になり音読 する。	一斉読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「声を出す4つの条件」を意識させる。</li> <li>・本時の学習のめあてを声に出させ，つかませる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大工さんの仕事に対する考え方から，どんな人柄なのか読みとらせる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習方法を黒板に提示し，確認させる。</li> </ul>	
ホップ	ステップ	ジャンプ								
・音読記号 をつける	・話し合い と音読練 習する。	・大工さん になり音読 する。								
わか	<p>2 大工さんとおみつさんの会話から大工さんの仕事に対する考え方が分かる言葉に着目し，音読をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">必要に応じて，音読記号や書き込みを加え音読をする。</div> <p>(1) おみつさん，大工さんの会話を読みながら，ラインを引く。</p> <p>(2) おみつさんと大工さんの会話を音読し，大工さんの仕事に対する考え方が表れている言葉に着目する。</p> <p>(3) 着目した言葉に音読記号や書き込みを加え音読する。</p>	一人読み 指名読み 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おみつさんの言葉，大工さんの言葉を色分けし，ラインを引かせる。</li> <li>・おみつさんと大工さんの会話を，音読させる。</li> <li>・大工さんの人柄や仕事に対する考えが表れている言葉に着目させ，力強い大工さんの口調に気づかせる。</li> <li>・第1時で各自でつけた音読記号を見直したり，付け加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大工さんの人柄や仕事に対する考え方の言葉に着目できたか。</li> </ul>						

か わ る	ステップ	音読記号や書き込みを基にグループで話し合い，声に出して読みを深めていく。  (4) 話し合いをし，グループで音読の練習をする。(4グループ)	読  グ ル ー プ 読 み	えたりさせる。  ・グループの進行係が進めるようにさせる。 ・間の取り方や声の大きさ，速さに気をつけさせる。	・グループの友達と考えを出し合い音読できたか。
	ジャンプ	大工さんの人柄が伝わるように工夫して音読する。  (5) 気持ちを込めて音読する。(グループごと) 友達の発表を聴き，評価カードに記入する。	グ ル ー プ 読 み	・どんな気持ちで音読するか言ってから，発表させる。 ・友達の音読を聞きよさを見つけ，学び合いができるようにさせる。 ・友達の音読を聴き，相互評価を行い，良いところやアドバイスを伝えるようにさせる。	・工夫して音読をすることができたか
で き る	3 読み取った大工さんの人柄を，ワークシートにまとめ，本時の学習場面を音読する。 (1) 読み取った大工さんの人柄をワークシートに書く。 (2) どんな人柄なのか発表する。 (3) 気持ちが表れるように音読をする。  4 自己評価をする。  	役 割 読 み	・手助けが必要な児童には，もう一度大工さんの言葉に着目させる。  ・2～3名に発表させる。  ・話し手(人物)の話の意図を相手に伝えようという気持ちで音読するようにさせる。  ・自己評価カードに記入をさせる。	・大工さんの人柄や仕事に対する考え方を読み取り，自分の考えを書くことができる。 ・気持ちを込め，聞き手に伝わるように音読できたか。	

## 9 評価

- (1) 大工さんの人柄を読み取ることができたか。  
(2) 進んで音読をすることができたか。

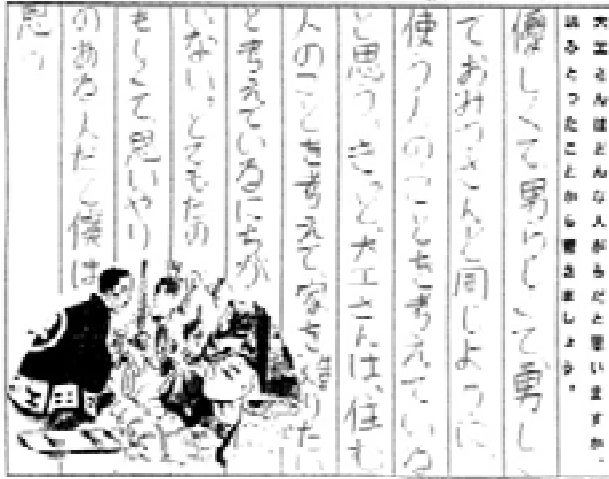


### 3 授業仮説の検証

#### (1) 仮説1の検証

大工さんの言葉に着目させ、音読することにより大工さんの人柄を読み取ることができるであろう。

大工さんとおみつさんの会話から、大工さんの言葉に着目させ音読した効果



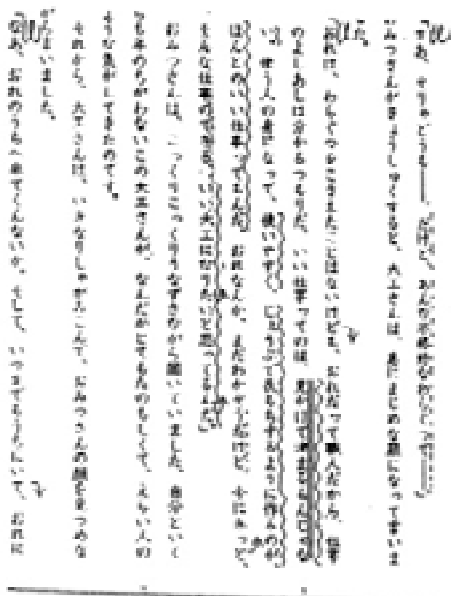
Aさんのワークシート



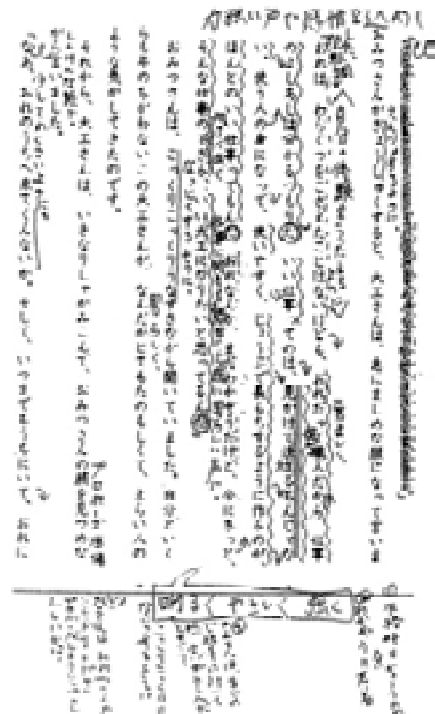
Bさんのワークシート

**【考察】** 10月のアンケート調査で音読は苦手だといっていた児童のワークシートAを見てみると、大工さんの人柄を読み取っている。音読 人柄を読み取る 人柄の表れるような音読 さらに人柄を読み取ったと考えられる。

音読記号を付けさせる効果



第1時で付けた音読記号



第7時で付けた音読記号

**【考察】** 第7時で記号付けや書き込みをした後の読みでは、大工さんの気持ちに近づこうとする様子が音読から感じられた。



## (2) 仮説2の検証

音読を効果的に取り入れることにより、進んで音読することができるであろう。

いくつかの読みの形態を取り入れた効果

経 過	形 態	効 果
わ か る	一斉読み	・みんなで声を出すことにより、授業へ積極的に参加することができた。
か わ る	一人読み 指名読み 一斉読み	・自分のペースで読むことができ、音読記号をつけたり書き込みを加えたりすることができた。 ・読ませるめあてを持って意図的に行い、繰り返し読んだ後と比較することができた。 ・着目する言葉を全員で読むことにより、進んで学習課題に取り組むことができた。
	ス テ ッ プ 自由音読 または グループ読み	・書き込みを基に話し合い自由音読、グループ音読をすることにより人柄を捉えることができた。
	ジ ャ ン プ グループによる 一斉読み	・みんなの前でグループ発表することにより、大工さんの人柄を読み取っていることを表現することができた
で き る	範 読 ( 役 割 )  役割読み	・数名の児童が役割読みで範読をし、より一層大工さんの人柄を表現することができた。また、聞いている児童にも伝えることができた。 ・人物の話の意図を相手に伝えようという気持ちで音読できた。

【考察】 音読の効果として上述したが、児童は音読から大工さんの人柄を捉えようと、大工さんになりきり気持ちを読み深めることができた。





## 研究仮説の検証

### 1 研究仮説 1 の検証

音読タイムでステップワークを活用し継続することによって、音読に親しみ音読の基礎ができるであろう。

#### (1) ステップワーク活用の効果

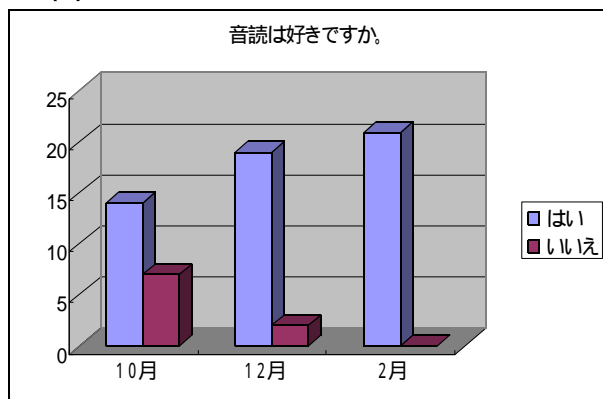


図3 音読は好きですか。

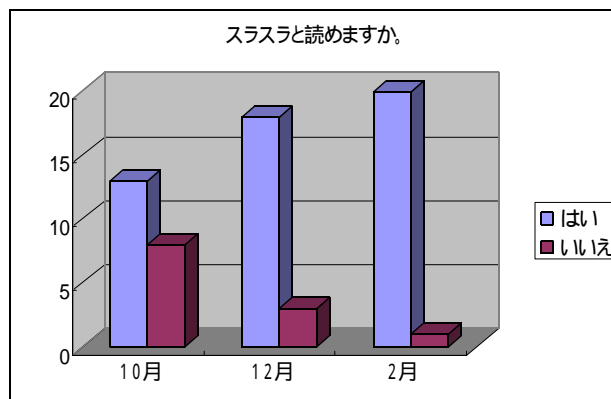


図4 スラスラと読めますか。

【考 察】 ステップワークの活用で練習内容に変化があり、児童は楽しみながら参加することができた。易から難へとステップを踏んで練習しているうちに、音読の基礎が体得できた。また最初、音読が苦手と見られた児童も興味をもつようになり、自信がついてきた。

#### (2) 朝の音読の継続の効果

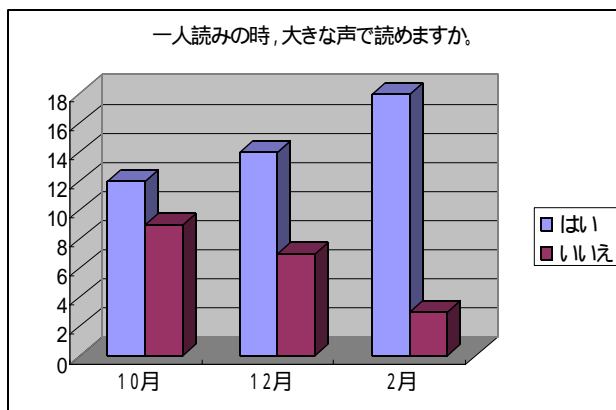


図5 一人読みの大きな声が出せますか。

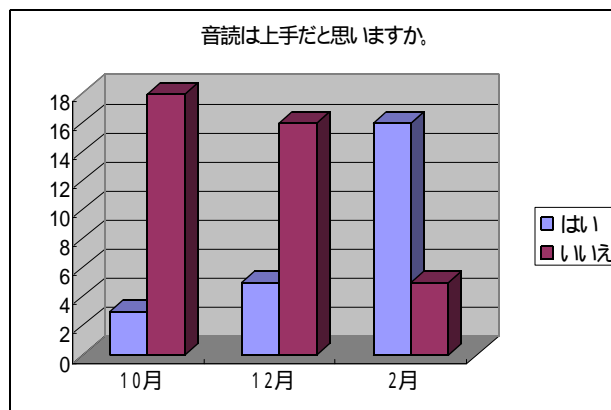


図6 音読は上手だと思いますか。

【考 察】 音読タイムの継続により、今まで音読の時、大きな声を出すことを恥ずかしがっていた児童が、回を重ねるごとに少しずつ大きな声で音読するようになった。また、豊かな表情で音読するようになり、音読に自信をもつ児童が増えた。

(3) 音読タイムを実践しての感想



【考 察】 音読タイムの継続で、恥ずかしながら声が出せるようになり、人前でも発表を進んでやる児童が増えた。また、声を出して読むことで、話の内容がわかり、話が覚えやすくなったこと、漢字が得意になったことなどから、理解力や暗記力、漢字力がつくことが考えられる。



## 2 研究仮説2の検証

授業の中に音読活動を効果的に取り入れ、音読に親しませることにより「読む力」が育つであろう。

### (1) 音読を効果的にいれた効果

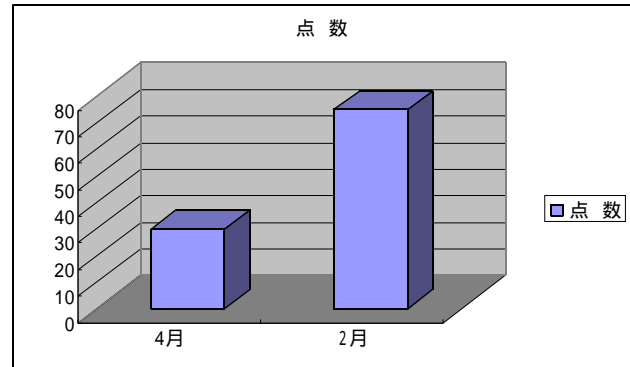
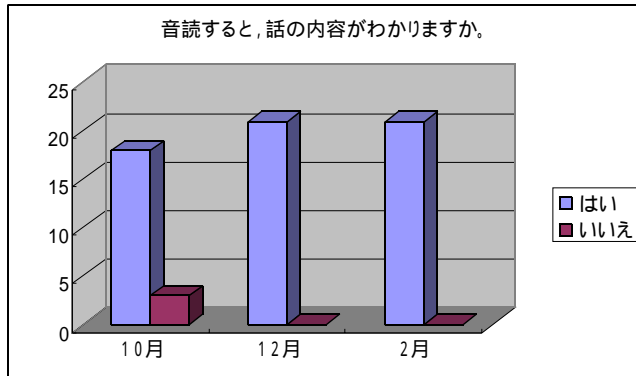


図7 音読すると話の内容がわかりますか。

図8 抽出児童の変容

【考察】 図8の児童は国語が苦手なため、音読が好きではないとアンケート調査で答え(10月)、つかえ読みで、文章題のテストでは問題文が読み取ることができなかった。しかし、音読を継続しているうちスラスラ読めるようになり、4月の読みのテストと2月の読みのテストの点数に変容が見えた。

### (2) テストの結果から見た効果

教科書教材とは違ったテストを10月と2月に実施した。10月に実施後、解答はせずに音読を取り入れたあと、再度2月に実施した。

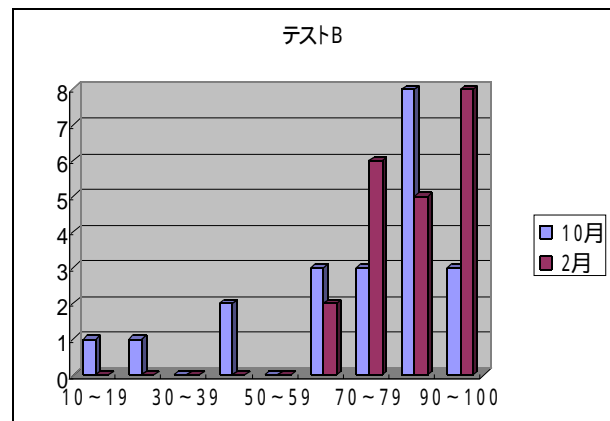
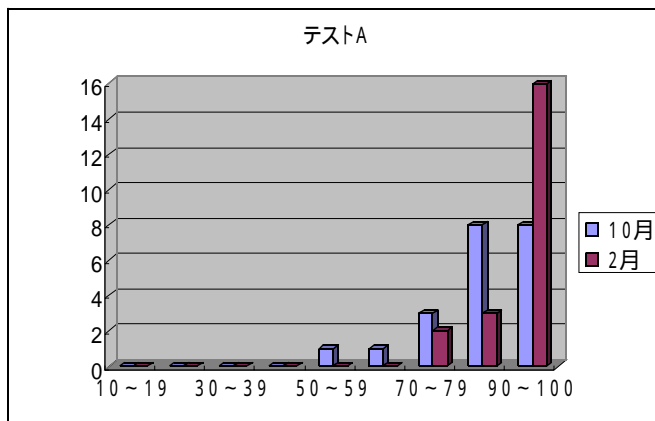


図9 テストのテストの結果

図10 テストの結果

【考察】 テストA・Bと実施。Bのテストは難しい問題で実施。テストBでは、低い点数の児童が2月のテストで大きく伸びが見られる。また、全体的に点数が上がったことがグラフからもわかり、音読の効果と考えられる。



## 研究の成果と課題

「読む力」をつけるためには音読が重要と捉え、朝の音読タイムで音読の基礎がつくような工夫をしたり、国語科学習の展開の中で音読を取り入れ本研究を進めてきた。以下、本研究の成果と課題である。

### 1 成果

- (1) 朝の音読タイムの継続的な取り組みにより、音読の基礎技能が身につく国語科学習の展開の中で音読活動をスムーズに取り入れることができた。また、音読を苦手としていた児童が興味を持ち音読をする喜びを味わうようになった。
- (2) 国語科授業の指導過程パターンを わかる かわる (ホップ ステップ ジャンプ) できる) で展開し、音読の読みの形態を取り入れることで進んで音読をし読みを深めることができた。
- (3) 積極的に自分の思いや考えを述べ、他の人の話にも耳を傾けるようになった。あいさつを進んでやるなど生活面にも変容が見られた。みんなで声をあわせることにより、友達同士のつながりも深まった。

### 2 課題

- (1) 学年相応の「読む力」を育てるために、児童の読みの経験実態を捉える。そして、児童の実態をふまえ、教師としての指導力を高める。
- (2) 音読を通して、「統合発信」をしていく。
- (3) 児童が家庭でも音読を継続できるように工夫をしていく。

## おわりに

響き合う子ども達の声。まるでみんなの心が一つになっているかのようです。そんな不思議な気持ちにする「音読」。6ヶ月間じっくりと研究し、音読からいろいろ気づかされたことがあります。研究を通して音読の意義・効果を改めて知ることができ、音読の継続的な取り組みから子どもたちは学習面、生活面と変容が見られました。音読をする子どもたちの表情を目にした時、「音読は子ども(人)の心を豊かにするのは・」ということを感じました。音読を通して、子どもたち同士のつながりも深まったといっても過言ではないと思います。本研究は自分自身を試みる 良い機会となりました。

最後になりましたが、研究期間中、たくさんの指導助言していただきました、琉球大学の緒方茂樹教授、宮古教育事務所の饒平名和枝指導主事、講話をしていただきました、宮古教育事務所の伊志嶺吉作教育相談員、心から感謝申し上げます。また、温かい指導、激励をして下さいました所長をはじめ教育研究所の関係職員へ深く感謝いたします。

今後も音読を継続し、子どもたちのために頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

### 【 主な参考文献・引用文献 】

瀬川 栄志	2005	『音読・朗読・暗唱』	明治図書
瀬川 栄志	1994	『音読・朗読・暗唱で意欲を高める』	明治図書
高橋 俊三	2002	『音読で国語力を高める』	明治図書
瀬川 栄志	2004	『音読・朗読・暗唱ステップワーク』	明治図書
深沢 秀雄	2002	『読みの力をつける』	明治図書
荒木 茂	1984	『音読指導の方法と技術』	一高社
文部科学省	1998	『学習指導要領』	